（別記）

令和８年度田原本町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

田原本町は、耕地面積に占める主食用米面積の割合が多く、転作作物に占める小麦、ＷＣＳ用稲、飼料用米の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が行われている。当町では水稲作付が高い水準にあるが、全国的には主食用米の需要が減少していることから、水田を活用し都市近郊の利点を生かした施設野菜や花卉栽培等、他の作物の作付けを促進することで、水田を活用し耕地面積の維持を図っていく必要がある。

また、農業従事者の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、ウンカ等の被害を受けた生産者が生産意欲の低下を招くことで不作付地の拡大が懸念される。

こうした中、水稲作付を含む水田面積の維持が課題となっている。

水田を活用した転換作物である小麦については、排水不良により単収の低下を招いており、排水対策を始め技術的改良及び土壌改良などにより収量の向上が必要になっている。

２　高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

イチゴ・トマト・ナス・ホウレンソウ・花木を町の重点作物として推進し、生産・販売の拡大を進め、園芸作物の振興に取り組む。また、大和野菜に認定されている味間いもについては、取組生産者数や作付け面積の拡大を推進し、高品質で良食味なものを出荷し、ブランド化に取組む。

共撰や地元直売所など多岐経路への出荷を通じた販売ルートの確立による規模の拡大とそれに伴う農家所得の向上を目指す。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

耕地に占める水稲作付の割合が高く、地域としては、担い手農家や集落営農組合を中心として産地交付金の活用により主食用米から新規需要米への転換を図り、収益力の強化を推進している。また、水田に恒常的に小麦、野菜等の畑作物を転換作物として作付けている耕地は多くを占めているが、小区画規模の農業者も多く集約化は難しい。

今後は、生産者から提出される営農計画書により作付作物の把握と現地調査での実情把握を行い、生産者等の意向を反映した営農形態の推進を図る。また、点検結果を検証し担い手農家の育成や集落営農組合に対して新規需要米の推進と並行して畑地化への誘導を図る。

また、ブロックローテーション体系の構築を検討しつつ、畑地化を含めた支援を計画していく。そして、高収益作物（園芸作物等）を中心とした営農体系への転換を促進するため、水田の排水改良、畑地かんがい施設の整備を推進する。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

地域の特性に応じた優良品種の作付けによる良質米の生産に努め、需要に応じた計画的生産を推進しつつ、１等米比率を向上させるための栽培管理技術の改善を進める。

（２）備蓄米

地域での取組計画にはないが、需要に応じて国と産地交付金を活用しつつ、買入契約を締結する

（３）非主食用米

ア　飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物の基幹作物に位置づけ、生産拡大にあたっては、水田活用の直接支払交付金を活用した導入推進を図る。

イ　米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、米粉用米も転換作物の基幹作物に位置づけ、生産拡大にあたっては、水田活用の直接支払交付金を活用した導入推進を図る。

ウ　新市場開拓用米

地域での取り組み計画にはないが、転換作物として位置づけ、主食用米の需要減が見込まれる中、新市場開拓用米生産拡大にあたっては、水田活用の直接支払交付金を活かした導入推進を図る。

エ　WCS 用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、耕畜連携の促進の観点からＷＣＳ用稲を転換作物として中心作物に位置づけ、生産拡大にあたっては、実需者との結びつきを強化し、水田活用の直接交付金を活用した導入推進を図る。

オ　加工用米

水田活用の直接交付金を活用しつつ、実需者との結びつきを強化し、生産の拡大を図る。

（４）麦、大豆、飼料作物

排水対策を積極的に進め、生産の組織化、作付けの団地化及び農作業の受委託等による省力化をより一層推進しながら生産性の向上に努め、収量及び品質の向上を図る。

（５）そば、なたね

排水対策を積極的に進め、生産の組織化、作付けの団地化及び農作業の受委託等による省力化をより一層推進しながら生産性の向上に努め、収量及び品質の向上を図る。

（６）地力増進作物

農地土壌は農業生産の基盤であり、農業生産の持続的な維持向上に向けて土づくりに取り組むことが必要である。また、地力増進作物は少ない労働力の投入により、環境に配慮しつつ、農地の地力増進を図ることとする。

（７）高収益作物

都市近郊の立地条件を利用し、地域の特産である野菜、なす・トマト・いちご・ホウレン草・切り花及び味間いも等を中心とした軟弱野菜等の都市近郊型農業を推進する。

（８）畑地化

現状水稲生産は行っておらず畑作物のみの作付けを行っており、今後も水稲作付けの見込みもない水田については、需要に応じた畑作物の作付けによる畑地化を推進する。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５ 作物ごとの作付予定面積等

（単位:ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	515.5	0.0	533.5	0.0	471.86	
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0	0	
飼料用米	0.5	0.0	0.5	0.0	13	
米粉用米	3.7	0.0	3.7	0.0	12	
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0	0	
WCS用稲	29.3	0.0	29.3	0.0	30	
加工用米	0.2	0.0	0.2	0.0	8	
麦	59.8	40.2	59.8	40.2	55	35
大豆	10.9	0.0	10.9	0.0	9	
飼料作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0	
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0	0.0	0	
そば	0.3	0.0	0.0	0.0	0	
なたね	0.0	0.0	0.0	0.0	0	
地力増進作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0	
高収益作物	85.1	0.1	85.1	0.1	102.5	
・野菜	70.4	0.1	70.4	0.1	87	
・花き・花木	8.1	0.0	8.1	0.0	10	
・果樹	0.6	0.0	0.6	0.0	0.5	
・その他の高収益作物	6.0	0.0	6.0	0.0	5	
その他						
・〇〇						
畑地化	0.9	0.0	1.2	0	0	

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標		
				前年度（実績）	目標値
1	トマト、なす、ホウレン草、いちご、花卉（基幹作物）	推進作物に対する助成	作付け面積拡大	（Ｒ７年度） 1350a	（令和８年度） 1590a
2	別紙一覧表のとおり。（ただし、整理番号１の対象作物は除く）（基幹作物）	高収益作物作付けに対する助成	作付け面積拡大	（Ｒ７年度） 498a	（令和８年度） 860a
3	味間いも（基幹作物）	味間いも作付者に対する助成	作付け面積拡大	（Ｒ７年度） 108a	（令和８年度） 70a

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：

協議会名：田原本町地域農業再生協議会

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	推進作物作付に対する助成	1	22,000	いちご・トマトなす・ほうれん草・花卉（基幹作物）	出荷・販売を行う対象作物の作付面積に応じて支援。
2	高収益作物作付に対する助成	1	16,000	別紙一覧表のとおり。（ただし、整理番号1の対象作物は除く）（基幹作物）	出荷・販売を行う対象作物の作付面積に応じて支援。
3	味間いも作付者に対する助成	1	26,000	味間いも（基幹作物）	出荷・販売を行う対象作物の作付面積に応じて支援。

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※2　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙一覧表

○水田活用の所得補償交付金における田原本町産地交付金の高収益作物対象作物		
分類名	作物名	備考
野菜	青さやインゲン、赤ネギ、赤毛ウリ、アサツキ、アスパラガス、ウコン、ウド、ウマイナ、ウリ、エダマメ、エンドウ類、オクラ、カイワレダイコン、カブ、カボチャ、カラシナ、カリフラワー、カンショ(食用品種)、カンショ(アルコール原料用品種)、カンピョウ、クウシンサイ、キノコ、キャベツ、キュウリ、食用キク、クレソン、クワイ、コウタイサイ、コゴミ、ゴボウ、コマツナ、サトイモ、サニーレタス、サラダナ、ザーサイ、シシトウ、シソ、ジネンジョ、シャクシナ、シュンギク(キクナ)、ショウガ、シロウリ、シロナ、スイカ、ズイキ、ズッキーニ、セリ、セロリ、タアサイ、ダイコン、タカナ、タマネギ、チンゲンサイ、チモシー、ツルムラサキ、トウガラシ、トウガン、ナバナ、ニガウリ(ゴーヤ)、ニラ、ニンジン、ニンニク、ネギ、ノザワナ、ハーブ、ハクサイ、ハス、パセリ、パプリカ、ハヤトウリ、バレイショ(食用品種)、ピーマン、ビタミンナ、ヒノナ、ヒモトウガラシ、ヒロシマナ、フキ、フキノトウ、プチベール、太ネギ、ブロッコリー、ベンリナ、マクワウリ、マコモタケ、マナ、ミズナ、未成熟トウモロコシ(スィートコーン)、ミツバ、ミブナ、ミョウガ、ミニトマト、メロン、モロヘイヤ、ヤーコン、ヤマノイモ(ヤマトイモ)、ユリネ、ヨモギ、ラディッシュ、ラッキョウ、リーフレタス、レタス、レンコン、レンザン、ワケギ、ワサビ、その他野菜	
種苗類		